



佐賀大で開かれた「SDGsアウトサイドイン」の体験会で、カードの組み合わせを考える学生たち

貧困解消・環境など国連17目標

誰もが安心して住み続けられる社会を作るために国連が掲げている「SDGs(エスディーズ、持続可能な開発目標)」について、カードゲームを通して知る取り組みが広がっている。貧困や環境破壊など世界が直面する課題を知り、身近な暮らしの中で自分のできることを学ぶことができる。

「おめでとう、事業成立です」

佐賀市の佐賀大で開かれたカードゲーム「SDGsアウトサイドイン」の体験会。講師の女性がそう言っていて、「化学メーカー社員」役の同大2年、佐伯実杜さん(20)に、「環境負荷の低い傘の開発」と書かれたカードを手渡した。

SDGsは、国連が貧困や飢餓の解消、気候変動対策などを目指して定めた17項目の目標。2030年を達成期限としている。ただ、電通(東京)が昨年行った調査では、回答した全国の男女6576

佐賀大生ら参加 課題解決探る



人のうち、SDGsを「知らない」と答えた人が84%に上った。17項目の目標について学び、達成に向けて何ができるかを考えるのに役立つのがカードゲームだ。

アウトサイドインは、新しいビジネスの創出を通じて社会課題の解決を考えるゲーム。体験会は、SDGsを学んで就職先選別に生かそうと、同大の学生らで作る環境団体「佐賀環境フォーラム環

境教育班(えこいぐ)が企画し、学生と社会人の計10人が参加した。

化学メーカーや商社などの社員になったとの想定で、2人1組で行った。各社の得意分野やノウハウを示すカードのほか、海洋汚染などの社会課題に関するカードも配られる。新しい事業を生み出すため、得意分野とノウハウのカードを組み合わせて講師に提出。事業化の可否は講師が判

SDGs 2017年10月に全会合で採択された国際目標。「誰一人取り残さず」の理念に基づき、17の目標と169のターゲットを掲げている。Sustainable Development Goalsの略

「SDGsは少し遠い存在だったが、日本でも解決すべき問題は多いことを再認識した。社会課題に取り組む企業に魅力を感じ、就職活動の参考にもなった」と佐伯さんは話す。

アウトサイドインは昨年、企業の新事業の構想を支援する仙台市の「オークジャパン」と、ビジネススキルを養うゲームの開発などを行う富山県滑川市の「プロジェクトアザイン」が共同開発した。同社はほかに、小学生でも取り組みやすいカードゲーム「2030SDGs」と、自治体の研修などで採用されている「SDGs de 地方創生」の開発にも携わった。

ゲームごとに講師の養成講座を開いており、アウトサイドインの講師は全国に約70人。佐賀大の体験会で講師を務めたフィッシュ明子さん(福岡市)は、昨年体験会に参加し、「カードゲームは参加者の心を動かす力がある」と講座を受講。九州大のスタッフとして働きながら、各地の大学や企業などで広めている。

フィッシュさんは「障害のある人を雇用している会社の商品を選んで買ったり、ゴミを減らすため水筒を持ち歩いたり、生活の中でできる行動から始めてほしい」と話す。

金沢工業大(石川県野々市市)も2018年、カードゲーム「X(クロス)」を開発した。学生らが中心となり、俳優の伊勢谷友介さんが代表を務める会社「リパースプロジェクト」(東京)と共同で作った。

「人工知能」「スマホ」などと書かれたカードがあり、これらを使って社会課題の解決策を考える内容。同大SDGs推進センターの

学校など出向き体験会

ホームページから無料でダウンロードでき、印刷して切って使える。同社のサイトから製品版(税込み2750円)も購入できる。

学生らが県内外の学校などに出向いて体験会を開いており、昨年は長崎市で、学習塾に通う小中学生約20人が体験。企業でも使われている。同大の担当者は「『誰か』ではなく、『自分』が取り組むべき問題だと気づききっかけになる」と話す。